

GRAND
PIANO

GRAND
PIANO

【GRAND PIANOレーベル】は、「ピアノのための希少なレパートリー」を素晴らしい演奏で録音することを目的に、2012年に設立されました。スイスのヨアヒム・ラフやロシアのアレクサンドル・チェレブニン、アルメニアのババジャニアンなど知られざる作曲家の作品を発掘、全作品の録音に挑むだけではなく、サン=サーンス、ベートーヴェンなどの秘曲をはじめ、フィリップ・グラス、シルヴェストロフなど“今、最も注目されている作品”の録音にも力を注いでいます。

THE KEY COLLECTION 3 CENTURIES OF RARE KEYBOARD GEMS



「GRAND PIANO」レーベル設立5周年を記念して作成されたアンソロジー。18世紀から21世紀までの、ほぼ300年に渡るピアノ音楽の歴史を紐解く興味深い3枚組。

- CD1 18TH AND 19TH CENTURIES: THE CLASSICAL AND ROMANTIC ERAS
- CD2 1900 – 1950s: DIVERGENCE IN A NEW CENTURY
- CD3 1960s – TODAY: LATTER-DAY TRENDS



GRAND PIANO CATALOGUE

'A treasure island of piano music'
– Spiegel Online

INDEX

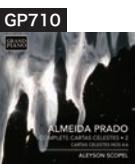
※価格はすべてオープンプライス

- A** エドゥアルド・アブラミヤン (1923-86) Edouard Abramian 2
ホセ・アントニオ・レセンデ・デ・アルメイダ・プラド (1943-2010) José António Resende de Almeida Prado 2
アレクサンドル・アルチニアン (1920-2010) Alexander Arutunian 2
ルイ・オーベール (1877-1968) Louis Aubert 2
B ゲオルゲス・バズ (1926-2012) Georges Baz 12
アルノ・パパジャニアン (1921-83) Arno Harutyuni Babadjanian 2
エドゥアルド・バグダサリアン (1922-87) Eduard Bagdasarian 2
ミリー・アレクセイヴィチ・バラキレフ (1837-1910) Mily Alexeyevich Balakirev 2
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770-1827) Ludwig van Beethoven 3, 9
ガリーナ・ウストヴォリスカヤ (1919-2006) Galina Ivanovna Ustvolskaya 3
ラース・アクセル・ビスゴー (1947) Lars Aksel Bisgaard 3
ヨーク・ボーエン (1884-1961) York Bowen 3
ヨハネス・ブラームス (1833-97) Johannes Brahms 3
C テレーサ・カレニョ (1853-1917) Teresa Carreno 3
アルフレッド・コルトー (1877-1962) Alfred Cortot 3
ヨハン・パブティスト・クラマー (1771-1858) Johann Baptist Cramer 3
D ジョアン・ギリエルメ・ダッディ (1813-87) Joao Guilherme Daddi 9
E タニヤ・エカナヤカ (1977) Tanya Ekanayaka 3
ジルジュ・エネスコ (1881-1955) George Enescu 3, 4
ヘルグ・エヴュ (1942-) Helge Evju 5
F ルボシュ・フィシェル (1935-99) Luboš Fišer 4
アニス・フレイハーン (1900-70) Anis Fuleihan 14
イグナーツ・フリードマン (1882-1948) Ignaz Friedman 4
ゲルハルト・フロムメル (1906-84) Gerhard Frommel 4
G フィリップ・グラス (1937) Philip Glass 4, 5
ボグホス・ゲラリアン (1927-) Boghos Gelalian 14
ミハイル・イヴァノヴィチ・グリンカ (1804-57) Mikhail Ivanovich Glinka 5
パンジャマン・ゴダール (1849-95) Benjamin Godard 5
ルイ・テオドール・グヴィ (1819-98) Louis Theodore Gouvy 5
パーシー・グレインジャー (1882-1961) Percy Grainger 5
エドヴァルド・グリーグ (1843-1907) Edvard Grieg 5
H フィリップ・ハ蒙ド (1951) Philip Hammond 5
アドルフ・フォン・ヘンゼルト (1814-1889) Adolf von Henselt 5
ヨハン・ヴィルヘルム・ヘスラー (1747-1822) Johann Wilhelm Hässler 6
フランツ・アントン・ホフマイスター (1745-1812) Franz Anton Hoffmeister 6
ヨーゼフ・ホフマン (1876-1957) Josef Hofmann 6
J アフシン・ジャベリ (1973-) Afshin Jaber 6
ヴォルフガング・ヤコビ (1894-1972) Wolfgang Jacobi 6
K ギヤ・カンチエリ (1935-) Giya Kancheli 14
マノリス・カラモリス (1883-1962) Manolis Kalomiris 7
ムラド・カジラエフ (1931-) Murad Kazhlayev 6
アラム・イリイチ・ハチャトゥリアン (1903-78) Aram Il'yich Khachaturian 6



アブラミヤン (1923-86)
ピアノ作品集

24の前奏曲
ミカエル・ハイラペティアン (P)



アルメイダ・プラド (1943-2010)
カルタス・セレステス 2

第4番-第6番
アレイソン・スコペル (P)



オーベール (1877-1968)
ピアノ曲とヴァイオリン・ソナタ

航跡 Op.27/ヴァイオリン・ソナタ /
イマージュの一葉 他
ジャン=ピエール・アルマンゴー (P)
オリヴィエ・ショーズ (Vn) 他



バグダサリアン (1922-87)
ピアノ曲とヴァイオリンのための音楽集

24の前奏曲/狂詩曲 (ヴァイオリン
とピアノ版) /夜想曲 イ長調
ミカエル・ハイラペティアン (P)
ウラディーミル・セルゲーエフ (Vn)

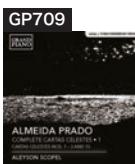


バラキレフ (1837-1910)
ピアノ作品全集 第2集

ワルツ 第1番-第7番/夜想曲 第1番-
第3番 他
ニコラス・ウォーカー (P)



技巧的な「イスラメイ」で知られるロシア五人組の一人、バラキレフ。第2集には夜想曲とワルツを中心収録。バラキレフが抱いていたであろう「ショパンへの憧れ」が強く感じられる曲集です。



アルメイダ・プラド (1943-2010)
カルタス・セレステス 1

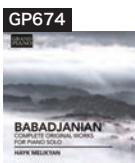
第1番-第3番/第15番
アレイソン・スコペル (P)



アルチニアン (1920-2010)
ピアノ作品全集

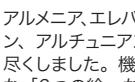
アルメニア舞曲/パストラル/
主題と変奏 他
ハイク・メリキヤン (P)

アルメニアを代表する現代作曲家アルチニアン。ショスタコヴィチも絶賛したという彼の作品は、アルメニア音楽を継承した親しみやすい雰囲気と、力強さを兼ね備えています。



パパジャニアン (1921-83)
独奏ピアノのための作品全集

ポリフォニック・ソナタ/6つの絵/
エレジー 他
ハイク・メリキヤン (P)



バラキレフ (1837-1910)
ピアノ作品全集 第1集

ピアノ・ソナタ/ピアノ・ソナタ 第1番
ピアノ・ソナタ「大ソナタ」
ニコラス・ウォーカー (P)



このアルバムの3つのソナタは、最初にOp.3が書かれ、それをOp.5に改編、更に50年後に番号なしに改作したというものです。第2楽章のマズルカがかろうじて原型をとどめています。



バラキレフ (1837-1910)
ピアノ作品全集 第3集

マズルカ 第1番-第7番/ソナチネ ト
長調/ユモレスク 二長調 他
ニコラス・ウォーカー (P)



第3集にもショパンの影響を感じられる「マズルカ」他いくつかの性格の小品を収録。どの曲も技巧的で華やかな表情を持っています。心地よく音が交錯する「ユモレスク」が優美。

GP619-20



ベートーヴェン (1770-1827)
4手ピアノのための作品全集 [2枚組]

ソナタ ニ長調/3つの行進曲/
大フーガ 変ロ長調 OP.134 他
エイミー・ハマン/サラ・ハマン
(ピアノ&フォルテピアノ)

ベートーヴェンが弟子との連弾用（教育用）として作曲した作品集。このアルバムではモダンピアノとベートーヴェンの時代で演奏されていたフォルテピアノの2種類を使用、音色の違いを楽しむことができます。

GP749



ブラームス (1833-97)
室内楽曲集
(P.クリングルによるピアノ独奏版)

ホルン三重奏曲 変ホ長調 Op.40/
クラリネット五重奏曲 口短調 Op.115
クリストファー・ウィリアムズ (P)

ピアノ独奏で聴くブラームスの2曲の室内楽作品。ブラームス自身が高く評価したクリングルの編曲は作品の持つ“厚みのある響き”が巧みにピアノへと移し替えられています。

GP641



コルト (1877-1962)
ピアノ編曲集

フォーレ:ドリー組曲(ピアノ独奏版)
フランク:ヴァイオリン・ソナタ(ピア
ノ独奏版) 他
ユエ・ヘ (P)

20世紀前半を代表するピアニストの一人、アルフレッド・コルト。この編曲集は教育者としても名高い彼が提唱した「健全な技術的基礎」を構築するために書かれた先人たちへのオマージュです。ただし、演奏は困難です。

GP613-14



クラマー (1771-1858)
ピアノのための練習曲集 [2枚組]

第1巻 Op.30/第2巻 Op.40 /ブゾ
ニ:8つの練習曲 (クラマーによる)
ジャンルカ・ルイージ (P)

ピアノ習学者におなじみの練習曲「クラマー・ビューロー」のオリジナル版。現在使われているのはハンス・フォン・ビューローが改訂したものです。クララ・シューマンもこの練習曲を用いたとされています。

GP705



エネスコ (1881-1955)
ピアノ作品全集 第1集

夜想曲 変ニ長調 /組曲 第3番
Op.18/ピアノ・ソナタ 第1番 嬰ヘ
短調 Op.24-1
ホス・デ・ソラウン (P)

傑出したヴァイオリニストとして知られるルーマニア出身のジョルジュ・エネスコ。実はピアノ曲にも優れた作品を数多く残しています。この第1集には比較的初期の作品を収録。

GP637

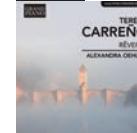


ボーエン (1884-1961)
ピアノ作品集

24の前奏曲 Op.102/子守歌 ニ長
調 Op.83/組曲 第2番 Op.30-舟
歌 他
クリスティーナ・オルティス (P)

イギリスの近代作曲家ボーエンの「24の前奏曲集」。その作風はロマン派の範疇にありながらも、時に驚くほどモダンな響きを聴くことができます。奇人ソラブジが絶賛したという作品です。

GP660



カレーニョ (1853-1917)
ピアノ作品集

故郷の思い出 Op.10/祈り Op.12/
カブリース・エチュード 第1番、第
2番 他
アレクサン德拉・エーラー (P)

ベネズエラのピアニスト、テレサ・カレーニョ。幼い頃から神童として名声を博した彼女の作品は、技巧的でありながら豊かな感性に裏打ちされた美しい旋律を持っています。

GP656



クラマー (1771-1858)
ピアノ作品集

アングロ=カレドニアンの旋律と変奏
曲/ピアノ・ソナタ ニ長調 他
マッティオ・ナボリ (P)

幼いころにクレメンティにピアノの指導を受けたというクラマー。一連のピアノ教則本で知られていますが、ここに収録されたソナタはベートーヴェン作品に匹敵する力作です。

GP693



エカナヤカ (1977-)
リインヴェンションズ

～を通して - 根本より、翼より/
蓮の中で - 蓮の花が花開くとき 他
ターニャ・エカナヤカ (P)

スリランカの作曲家エカナヤカの自作自演アルバム。鍵盤に向かうと即座にメロディが浮かぶという彼女、ここでは過去の作曲家たちの幻影をスリランカ民謡に融合させたという、興味深い作品を作り上げています。

GP706



エネスコ (1881-1955)
ピアノ作品全集 第2集

組曲 第2番 ニ長調 Op.10/前奏曲
とフーガ/ピアノ・ソナタ 第3番 ニ
長調 Op.24-3 他
ホス・デ・ソラウン (P)

第2集には、作曲年代に30年以上の隔たりがある4作品を収録。華麗なトッカータで幕を開ける初期の名作「組曲第2番」、そして、独自の作風が確立された堂々たる「ソナタ 第3番」など興味深い選曲です。

GP707

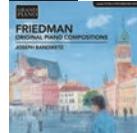


エネスコ (1881-1955)
ピアノ作品全集 第3集

スケルツォ /バラード /組曲 第1番
ト短調「古い様式で」 Op.3 他
ホス・デ・ソラウン (P)

完結編となる第3集には、主に10代の作品を収録。ウィーン、パリ双方の伝統を継承した作風による小品の数々をお楽しみいただけます。第13回ジョルジュ・エネスコ国際ピアノ・コンクールの優勝者ホス・デ・ソラウンの演奏で。

GP711



フリードマン (1882-1948)
オリジナル・ピアノ作品集

E.ガートナーのモティーフによる6
つのウィーン舞曲/4つのピアノ小品
Op.27/4つの前奏曲 Op.61 他
ジョセフ・バノヴェツ (P)

「至高のヴィルトゥオーゾ」と評されたフリードマンは、また素晴らしい作曲家でもありました。オリジナル作品だけでも90曲を越え、そのどれもが後期ロマン派風の作風によって書かれています。

GP606



フロンメル (1906-84)
ピアノ・ソナタ集 第1番-第3番

ピアノ・ソナタ 第3番 ホ長調「シ
ナ」 Op.15/第2番 ヘ長調 Op.10/
第1番 嬰ヘ短調 Op.6
タチアナ・ブローメ (P)

1906年生まれのフロンメルの作品集。活躍したのは調性音楽が崩壊し、無調、十二音に移行する時代でしたが、彼は生涯調性を捨てることはなく、そのため時代から取り残されてしまいました。

GP677



グラス (1937-)
グラスワールド 1

組曲「オルフェ」(P.バーンズによる
ピアノ版) /ドリーミング・アウェイク
ハウ・ナウ 他
ニコラス・ホルヴァート (P)

20世紀の音楽における新しいジャンル「ミニマル・ミュージック」を確立させた音楽家の一人、フィリップ・グラス。この5枚に渡るシリーズには、様々なグラスの音楽が収録されています。

GP691



グラス (1937-)
グラスワールド 3

メタモルフォーシス I-V /オリンピアン
(ピアノ版) /ソナチネ 第2番 他
ニコラス・ホルヴァート (P)

第3集にはカ夫カの小説「変身」とエロール・モリスの映画のためのサントラが入り交じる一連の「メタモルフォーシス」5曲を中心に収録。美しいミニマル・ミュージックを堪能できます。

GP770



フィシェル (1935-99)
ピアノ・ソナタ 全集

ピアノ・ソナタ 第1番/第3番-第8番
ズサナ・シムロドヴァー (P)

20世紀チェコにおいて最も影響力のあったフィシェル。クラシック音楽以外のジャンルでも多くの作品を残しています。7曲のピアノ・ソナタは多彩な作風を持ち、後期になるとしたがって簡潔な書法をみせます。

GP712



フリードマン (1882-1948)
ピアノ・トランスクリプション集

J.S.バッハ:シチリアーノ(ピアノ独奏版)
グレク:精霊の踊り(ピアノ独奏版)
フランク:前奏曲、フーガと変奏曲 口短調 (ピ
アノ独奏版) 他 ジョセフ・バノヴェツ (P)

こちらはフリードマンの編曲集。バロック期の作品から、彼が活躍した同時代の作品までを収録(うち3曲は世界初録音)、フリードマンの曲に寄せる愛着もうかがえる興味深い1枚となっています。

GP640



フリードマン (1882-1948)
ピアノ・ソナタ集 第4番-第7番

ピアノ・ソナタ 第4番 ホ長調
Op.21/第5番 変ホ長調 Op.35/
第6番 変ニ長調/第7番 ハ長調
タチアナ・ブローメ (P)

フロンメルのソナタはどれも折々の彼の心情を反映させたもので、どの曲にも調性が付され、プロコフィエフ風であったり、フォーレ風であったりと変幻自在な佇まいを持っています。

GP690



グラス (1937-)
グラスワールド 2

エチュード 第1集/第2集
ニコラス・ホルヴァート (P)

記念すべきCBSレコードへのデビュー作である「グラスワールド I. オープニング」で始まる第1集に続く第2集は、ピアノの技巧開拓を目的とした「エチュード集」。精巧な音の細工です。

GP692



グラス (1937-)
グラスワールド 4

めぐりあう時間たち (M.リーズマン&
N.マリーによるピアノ版) /モダン・
ラヴ・ワルツ 他
ニコラス・ホルヴァート (P)

アメリカ映画「めぐりあう時間たち」。作家ヴァージニア・ウルフを巡る3人の女性たちを描いた映画にグラスが付けた音楽は美しくも不気味なもの。ここではピアノ独奏版でお楽しみいただけます。



グラス (1937-)
グラスワールド 5

マッド・ラッシュ・メタモルフォーシス II (改訂版) / サウンド・オブ・サイレンス (P.グラスによるピアノ版)
ニコラス・ホルヴァート (P)

第5集はオルガンのために書かれた「マッド・ラッシュ」、偏執的なトッカータ「600ライン」、「メタモルフォーシスII」、変わり種の「サウンド・オブ・サイレンス」。4曲の異なる雰囲気を持った作品で構成されています。



グリンカ (1804-57)
ピアノ作品全集 第1集 変奏曲集

創作主題による変奏曲へ長調/ケルビニの歌劇「ファニスカ」による変奏曲 口長調/モーツアルトの主題による変奏曲 (ピアノ版) 他 インガ・フィオリア (P)

裕福な家庭に育ち、幼い頃ジョン・フィールドにピアノを学んだというロシア五人組の祖グリンカ。この第1集では彼が得意とした変奏曲をじっくり味わえます。



ゴダール (1849-95)
ピアノ作品集 第2集

古き夢 Op.140/夜想曲 第1番-第4番/3つの小品 Op.16 他 エリアーヌ・レイエ (P)

第1集のソナタに比べると、第2集の「夜」、「夢」、「詩」に象徴される小品はどれも、夢見るようなメロディと甘い雰囲気を湛えており、こちらこそが誰もが知っているゴダールのイメージに近いものでしょう。



グレインジャー (1882-1961)
ピアノ・デュエット&デュオのための民謡にもとづく作品集

ストランド街のヘンデル (2台ピアノ版)/岸辺のモリー (2台ピアノ版) クレメンス・ラーヴェ (P)
カロリーネ・ヴァイヒエルト (P)

グレインジャーは「民謡を大切にする心」のもと、蓄音機を持参してイギリス中を回り各地の民謡を収集。積極的に自作に取り入れました。このアルバムでその成果を聴くことができます。



ハモンド (1951-)
ミニチュアとモデュレーション
Charles MacHugh - The Wild Boy/Kiss Me Lady 他
マイケル・マクヘイル (P)

18世紀末、E.バンティングが収集した膨大なアイルランド民謡は、この国の偉大な宝物になりました。このアルバムは、現代作曲家ハモンドがこれらの民謡に斬新で自由なアレンジを加えたものです。



グラス (1937-)
GLASS ESSENTIALS
グラス80歳を記念して [LP]

めぐりあう時間たち (M.リーズマン&N.マリーによるピアノ版) / サウンド・オブ・サイレンス 他 ニコラス・ホルヴァート (P)

フィリップ・グラスの生誕80年を記念して作られたLP。この特別なLPは、彼の「エチュード」と映画音楽「めぐりあう時間たち」の抜粋曲を中心に、グラスの音楽を象徴する作品で構成されています。



ゴダール (1849-95)
ピアノ作品集 第1集

ピアノ・ソナタ 第2番 Op.94/幻想的ソナタ Op.63/海辺の散歩 Op.86 他 エリアーヌ・レイエ (P)

オペラ作曲家を夢見たゴダール。しかし彼の本領が発揮されているのはこれらのピアノ曲です。2つのピアノ・ソナタの壮大な作風は、彼が単なる「サロン風作品の作曲家」ではないことを示すものです。



グヴィ (1819-98)
4手ピアノのためのソナタ集

4手ピアノのためのソナタ 二短調 Op.36/八短調 Op.49/へ長調 Op.51 エミール・ナウモフ/チェン・ヤウ (P)

フランス=ドイツの作曲家グヴィ。彼のピアノ曲のほとんどは4手のため書かれています。シューベルトやシューマン風の味わいをもつ3曲のソナタを収録。



グリーグ (1843-1907) ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16
エヴュ (1942-) ピアノ協奏曲 口短調 (グリーグの断章による)

カール・ペティション (P)/ケリ・ストラットン (指揮) ブラハ放送交響楽団

グリーグが構想を練るも、完成することのなかった「断章」をもとに、後の作曲家エヴュが完全な形のピアノ協奏曲として再現させた「ピアノ協奏曲 口短調」。至る所で聞こえるグリーグ風の響きが素晴らしい作品です。



ヘンゼルト (1814-1889)
ピアノ作品集

子守歌 Op.45/小さいロマンス/メランコリックなワルツ Op.36 他 セルジオ・ガッロ (P)

フンメルに師事し、演奏会ピアニストとして大成功を収めたヘンゼルト。敬愛するリストに「ビロードの掌」と称賛されたほどの名手でした。性格的練習曲 Op.2-6 「もしも私が鳥だったら」が代表作です。



ヘスラー (1747-1822)
全ての長調と短調による360の前奏曲 Op.47/他 ソナタ集 [2枚組]
ヴィトラウス・フォン・ホルン (P)

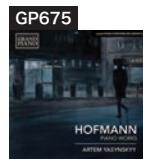
思わず目を疑う「全ての長調と短調による360の前奏曲」というタイトル通り、5分足らずの「一つの調性グループ」に15の小さな曲がひしめくユニークな曲集です。



ホフマイスター (1745-1812)
ピアノ・ソナタ集 第2集

3つのソナタ 第1番-第3番
2つのソナタ 第1番-第2番
ビリアーナ・ツインリコヴア (P)

ホフマイスターの作品のほとんどは、友人のフルート奏者ランツ・トゥルナーのためのフルート作品ですが、ピアノ曲にはベートーヴェン風の素晴らしい作品があります。



ホフマン (1876-1957)
ピアノ作品集

性格的なスケッチ集 Op.40/左手のための練習曲 八長調 Op.32 他 アルテム・ヤシンスキイ (P)

20世紀の伝説的ヴィルトゥオーゾ・ピアニスト、ヨーゼフ・ホフマンの自作集。どれも自分で演奏するために書かれており、先鋭的な響きを用いることなく、超絶技巧が披露できる華麗な作品です。



ヤコビ (1894-1972)
ピアノ作品集 [2枚組]

パッサカラとフーガ Op.9/古風な様式の組曲 Op.10/ピアノ・ソナタ 第2番 他 タチアナ・ブローメ (P)

ドイツ最大の島、リューゲン島生まれの作曲家、ヴォルフガング・ヤコビのピアノ作品集。現代的な響きの中にコラールやカノンを取り入れた新古典主義による魅力的な小品です。



カジラエフ (1931-)
ピアノ作品集

ロマンティックなソナチネ/ダゲスターのアルバム/6つの前奏曲 他 楠千里 (P)

アゼルバイジャンの作曲家、カジラエフの作品集。彼は同世代のカブースチンと同じように、ジャズに強い愛着を示した人で、ここで聞ける作品のいくつかもノリのよいジャズ・ティストとなっています。



ホフマイスター (1745-1812)
ピアノ・ソナタ集 第1集

ソナタ イ長調/ト長調/変口長調
変奏曲 ハ長調
ビリアーナ・ツインリコヴア (P)

18世紀から19世紀にかけて活躍したホフマイスター。出版者として同時代の作品を次々と世に送り出し、数多くの作曲家たちと親交を結んだ人です。



ホフマイスター (1745-1812)
ピアノ・ソナタ集 第3集

ソナタ 二長調/ハ長調/変口長調
ビリアーナ・ツインリコヴア (P)

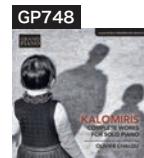
18世紀当時の職人技を駆使したともいえる彼のソナタは、どれも端正な形式によって書かれていますが、変奏曲になるとかなり劇的な面もあり、ロマン派への萌芽が認められます。



ジャベリ (1973-)
ピアノ・ソナタとバラード集

ピアノ・ソナタ 第1番「シーカー」/第2番「平和への道」/第3番「ベドウイン」
バラード 第1番「エロルド」他 アフシン・ジャベリ (P)

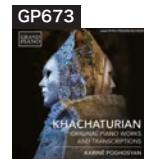
イランで活躍する作曲家、ピアニスト、ジャベリの作品集。彼の作品には、どれも信仰するバハイー教の教えが浸透しており、未知の世界の扉を開く楽しさを味わわれてくれます。



カロミリス (1883-1962)
独奏ピアノのための作品全集

バラード 第1番-第3番/ギリシャの子供たちのために 第1巻・第2巻 他 オリヴィエ・ショーズ (P)

オスマン帝国出身、28歳の時にアテネに定住し、近代ギリシャ音楽の発展に寄与した作曲家カロミリス。「ギリシャ民謡研究」の成果ともいえる独特なリズムが用いられた前衛的で独創的なティストが魅力です。



ハチャトゥリアン (1903-78)
オリジナル・ピアノ作品とトランスクライピング集

トッカータ/パエ音楽「スパルタクス」・アーダージュ (M.キヤメロフによるピアノ編) /「仮面舞踏曲」組曲より (A.ドルハニヤンによるピアノ編) カリネ・ボゴシアン (P)

迫力あるオーケストラ作品で知られるハチャトゥリアン。しかしピアノ曲はほとんど耳にする機会がありません。このアルバムではオリジナル作品の「トッカータ」「ソナタ」など珍しい作品も聴くことができます。



カプラロヴァ (1915~40)
ピアノ作品全集

ソナタ・アバッショナータ Op.6/前奏曲 Op.9-1/グロテスクなバッサカリア他
ジョルジオ・コウクル (P)

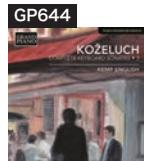
ブルノ生まれの女性作曲家カプラロヴァの作品集。マルティヌーに師事し、数々の賞を獲得、将来を嘱望されていた矢先、25歳の若さでこの世を去った夭逝の天才です。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第1集

ピアノ・ソナタ 第1番 へ長調/
第2番 変ホ長調/第3番 ニ長調/
第4番 変口長調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

ボヘミア出身、ウィーンで活躍した作曲家、音楽教師のコジェルフによるソナタ集です。彼はボヘミアで最初の音楽教育を受けた後、ブラハでは法学を学び、また音楽に戻ってきました。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第3集

ピアノ・ソナタ 第9番 ハ長調/
第10番 へ長調/第11番 変ホ長調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

ヴァーゲンザイルの後任としてオーストリア帝室音楽教師に就任するという出世を遂げたコジェルフは、楽譜出版業も手掛け、一時はモーツアルトもコジェルフの出版社から作品を出版したほどでした。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第5集

ピアノ・ソナタ 第17番 ハ長調/
第18番 変イ長調/第19番 へ短調
第20番 イ長調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

50曲ほどあるソナタは初期のフルテピアノのために書かれており、ハイドンとベートーヴェン、シューベルトを繋ぐ橋渡しとしての機能も備えています。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第7集

ピアノ・ソナタ 第25番 ニ長調/
第26番 イ短調/第27番 変ホ長調
第28番 変口長調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

初期から中期のソナタには、モーツアルトの影響が強く見て取れます。第22番ニ短調など、曲によっては明らかにモーツアルトを先取りしているものもあり、コジェルフの先進性も味わえます。



コミタス・ヴァルダベット (1869-1935)
ピアノ曲と室内楽作品集

7つの民族舞曲/ピアノのための7つの歌/子供のための12の小品他
ミカエル・ハイラペティアン (P) /ウラディーミル・セルゲーエフ (Vn)

アルメニアの司祭、音楽学者、作曲家、歌手、聖歌隊指揮者として知られるコミタス。波乱万丈の生涯を送り、アルメニアの民族音楽の復興に力を注いた人です。作品はとても静謐な雰囲気を湛えています。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第2集

ピアノ・ソナタ 第5番 イ長調/第6番 ハ短調/第7番 ニ長調/第8番 へ長調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

1771年に作曲家としてデビューし、プラハ国立劇場のために多くの舞台音楽を作曲し高く評価されたコジェルフ、当時はピアニストとしての名声は持ていなかったにも拘わらず、短期間に技術をマスターしたとされています。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第4集

ピアノ・ソナタ 第12番 ハ長調/
第13番 変ホ長調/第14番 ト長調/
第15番 ホ短調/第16番 ト短調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

鍵盤のためのソナタは1773年に書かれた最初の作品から、最後の3つのソナタまで、およそ40年に渡って書かれており、各々時代を反映した作風となっています。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第6集

ピアノ・ソナタ 第21番 変ホ長調/
第22番 へ長調/第23番 ハ長調/
第24番 ニ短調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

確かに彼のソナタにはハイドンやモーツアルトなどの革新性はないものの、明らかに当時最高の人気を誇っていただけの優雅さがあり、また曲によっては驚くほど劇的な表現も含んでいるという興味深いものです。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第8集

ピアノ・ソナタ 第29番 ト長調/
第30番 ハ短調/第31番 へ長調/
第32番 イ長調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

1800年代初頭には、アイルランド、スコットランド、ウェールズ民謡の収集家として知られるイギリスの楽譜商ジョージ・トムソンの依頼により、民謡の研究を始め、コジェルフは忙しい毎日を送ることとなります。(GP733に続く)



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第9集

ピアノ・ソナタ 第33番 ト短調/
第34番 変ホ長調/第35番 ハ長調/
第37番 ト長調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

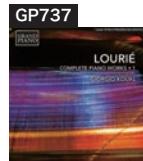
そのためか、いくつかの作品では、スコットランド民謡を思わせるフレーズも現れるなど、当時の流行の一端を伺い知ることもできます。



クヴァンダール (1919-99)
独奏ピアノのための作品全集

3つのスロッテ幻想曲 Op.31/5つのピアノ小品 Op.1/8つの民謡 他
ヨアヒム・クノップ (P)

20世紀初頭のノルウェーに生まれたヨハン・クヴァンダール。年代によって作風が変化した人ですが、このアルバムではピアノ曲全作品を聴くことができます。初期の「ソナチネ」から晩年の作品「モザイク」まで面白い曲が並びます。



ルリエ (1892-1966)
ピアノ作品全集 第1集

5つの前奏曲断章 Op.1/2つの版画
Op.2/2つのマズルカ Op.7 他
ジョルジオ・コウクル (P)

ロシア出身の作曲家ルリエの作品集。ソ連楽壇の指導的作曲家として活動を始めたものの、ドイツを経てアメリカに亡命した頃にはすっかり新古典派主義の作風に転換してしまいました。



マチエク (1914-2002)
ピアノ作品全集
ヴァイオリン・ソナタ

ソナチネ/主題と変奏/即興曲/ヴァイオリン・ソナタ 他 ゴラン・フィリペツ (P) /シルヴィア・マツソウ (Vn)

ユーゴスラビア（現クロアチア）の作曲家マチエクのピアノ作品全集。初期作品ではフランスの印象派風の佇まいを見せますが、晩年には簡潔な作風へと転じます。渋い美しさを放つヴァイオリンソナタも聴きものです。



メトネル (1880-1951)
ピアノ・ソナタ 全集 第2集

ソナタ三部作 Op.11/ソナタ ハ短調
「おとぎ話」 Op.25-1/ソナタ ト長調
「牧歌」 Op.56
ポール・スチュワート (P)

メトネルのソナタはどれも情感豊かで、多彩なストーリーを持っています。この第2集では「三部作ソナタ」と「おとぎ話」、のどかで本当に美しい「牧歌」の3曲を収録。



コジェルフ (1747-1818)
ピアノ・ソナタ全集 第10集

ピアノ・ソナタ 第38番 変ホ長調/
第39番 ハ短調/第40番 ニ短調/
第41番 ト長調
ケンブ・イングリッシュ (フルテピアノ)

作品を演奏しているケンブ・イングリッシュは、ウィーンの楽器製造者アントン・ヴァルターの複製楽器を使用。時代に拘って2台の楽器を巧みに弾き分けています。



ル・フレム (1881-1984)
ピアノ作品全集

4月/荒野を通って/子供のための7つの小品 他
ジョルジオ・コウクル (P)

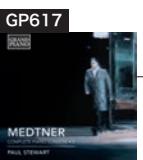
ブルターニュの音楽に強い愛着を持ち、自作に民族的な要素を積極的に取り入れたル・フレム。103歳という長寿に恵まれたものの、ピアノ曲は50代半ばで書くことをやめてしまった人です。その作品は印象派風の洒落た雰囲気を持っています。



ルリエ (1892-1966)
ピアノ作品全集 第2集

2つの詩曲 Op.8/グルックによるヌエット/子供部屋のピアノ 他
ジョルジオ・コウクル (P)

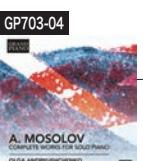
死後、忘却された存在になっていたルリエの作品の復興に一役買ったのはギドン・クレーメル。彼が作品を紹介したことで認知度が一気に高まりました。現在では「大気の形」が人気です。



メトネル (1880-1951)
ピアノ・ソナタ 全集 第1集

ソナチネ ト短調/ピアノ・ソナタ へ短調 Op.5/忘れられた調べ Op.38-回想ソナタ 他
ポール・スチュワート (P)

「近代ロシアの最も偉大な作曲家の一人」とされるニコライ・メトネル。詩的で憂いを含んだ音楽はラフマニノフと比較されることの多い人です。第1集には「回想のソナタ」を含む3曲を収録。



モソロフ (1900-73)
独奏ピアノのための作品全集 [2枚組]

ピアノ・ソナタ 第1番 ハ短調 Op.3
2つの夜想曲 Op.15/3つの小品 Op.23a 他
オリガ・アンドリュシエンコ (P)

破壊的な音楽の象徴とも言える「鉄工場」で知られる、20世紀ソビエトの作曲家モソロフ。このアルバムには彼が残したピアノ作品が全て収録されています。自由な楽想とアグレッシブなフレーズが魅力的。

GP615-16



ネーフェ (1748-98)
12のソナタ集 (1773) [2枚組]

ソナタ第1番-第12番/
ベートーヴェン: ドレスラーの行進曲
による9つの変奏曲
スザン・カガン (P)

ベートーヴェンの最初の教師として、その名が知られているネーフェの作品集。バッハ・ファミリーの信奉者であった彼の作風は、ベートーヴェンの最初の出版作品「ドレスラーの行進曲による9つの変奏曲」を受け継がれています。

GP662



ニーマン (1876-1953)
ピアノ作品集

ピアノ・ソナタ 第1番 イ短調「ロマンティック」/ピアノ・ソナタ 第2番 へ長調「ノルディック」Op.75/3つのコンポジション 他 李冰冰 (リー・ビンビン) (P)

ドイツの高名な音楽ジャーナリストであり、作曲家としても活躍したニーマン。作品番号が190を超えるほど多作家でしたが、死後すっかり忘れられてしまいました。ブラームスを思わせる重厚な響きが特徴です。

GP638



ポンセ (1882-1948)
ピアノ作品全集 第1集

演奏会用メテモルフォーシス「エストレーリータ」/シェリット・リンド/椰子林のそばで 他
アルバロ・センドージャ (P)

メキシコの作曲家ポンセと言えば、美しい「エストレーリータ(小さな星)」が知られています。この曲はもともと歌曲でしたが、ここでは演奏会用として技巧的なピアノ曲に変容されたものが収録されています。

GP725



ダッディ / ダ・モッタ
ポルトガルのピアノ作品集
アンダンテ・カンターピレ/舟歌/
ポルトガルの情景 Op.9
ソフィア・ローレンソ (P)

リストが惚れ込んだという才能の持ち主ダッディとヴィアナ・ダ・モッタ。このポルトガルの2人の作曲家によるピアノ曲集。技巧的なダッディ、民謡の要素を取り込んだダ・モッタ。どちらも個性的です。

GP602



ラフ (1822-82)
ピアノ作品集 第1集

春の便り Op.55/3つのピアノ独奏曲
Op.74/幻想曲 口長調 WoO15A
チャ・グエン (P)

若い頃に聴いたリストのコンサートに強い衝撃を受け、そのままリストの弟子になってしまったスイスの作曲家ヨアヒム・ラフのピアノ作品集。数多くのピアノ曲を残しています。

GP652



ネノフ (1902-53)
ピアノ作品集

主題と変奏 嬰へ長調/おとぎ話と踊り/
練習曲 第1番-第2番 他
ヴィクトル・ヴァルコフ (P)

20世紀のブルガリア音楽界を牽引した作曲家ネノフのピアノ作品集。少しだけ時代に逆行したかのような、「主題と変奏」で聴くことのできる、繊細な響きと美しい旋律が持ち味です。

GP682



オズワルド (1852-1931)
ピアノ作品集

バジーナ・ダブルム Op.3/即興曲
Op.19/アルバム OP.32 他
セルジオ・モンティロ (P)

リオデジャネイロで生まれ、その翌年にサンパウロに移住したエンリケ・オズワルドのピアノ曲集。ブラジル民謡にフランス風の洒落た味付けを施した曲が並びます。

GP764



ポンセ (1882-1948)
ピアノ作品全集 第2集

キューバ狂詩曲 I/グアテケ/キューバ
組曲 他
アルバロ・センドージャ (P)

ポンセは常にサロン風音楽を書いていたわけではありません。第1集の「メキシコ舞曲」や第2集の一連の「キューバ」による作品では、情熱的なリズムとフレーズが次々と現れます。

GP765



ラーツ (1932-)
ピアノ・ソナタ全集 第1集

ピアノ・ソナタ 第9番/第10番/
第1番-第4番
ニコラス・ホルヴァート (P)

エストニア生まれのラーツの音楽集。映画音楽を多く手がけたラーツの作品は、どれも洗練されたスタイルの中に、適度な遊び心が感じられます。多くは不協和音の嵐ですが、時折親しみやすい響きが混じっています。

GP612



ラフ (1822-82)
ピアノ作品集 第2集

幻想的ソナタ Op.168/創作主題
による変奏曲 Op.179/4つの小品
Op.196
チャ・グエン (P)

リストよりもシューマン的な味わいを持つ「幻想的ソナタ」、微妙なゆらぎ感のある主題を、とことんまでに変容させた「変奏曲」、詩的で抒情的な煌めきが美しい「4つの小品」。

GP634



ラフ (1822-82)
ピアノ作品集 第3集

抒情的なアルバム Op.17/5つのエ
クローグ Op.105/即興的 フルツ
Op.94/幻想ポロネーズ Op.106
チャ・グエン (P)

「即興的 フルツ」や「幻想ポロネーズ」は、まさしくリスト風の華麗なピアニズムが炸裂しています。一転「抒情的なアルバム」は、ゆったりとした曲が大半を占めた落ち着いた曲集となっています。

GP654



ラフ (1822-82)
ピアノ作品集 第5集

大ソナタ Op.14/
葉っぱと花 Op.135a
チャ・グエン (P)

まるで交響曲を思わせる壮大な「ソナタ」は作曲番号こそ若いものの、実は亡くなる前年に完成された曲。「葉っぱと花」はシューマン風の内省的で表現的な曲集。美しい花が香りを競い合います。

GP728



ラフ (1822-82)
ピアノ作品集 [6枚組ボックス]

GP602、GP612、GP634、GP653、
GP654、GP655を収録。
チャ・グエン (P)

「カヴァティーナ」1曲のみが知られる口マン派の作曲家ヨアヒム・ラフ。リストに憧れ、ピアニストとしても名を馳せた彼が残した美しいピアノ曲の数々をまとめた6枚組BOX。

GP743-44



ロスラヴェツ (1881-1944)
ピアノ作品全集 [2枚組]

ピアノ・ソナタ 第1番/5つの前奏曲
/3つのコンポジション 他
オリガ・アンドリュシエンコ (P)

ストラヴィンスキーが「20世紀の最も興味深いロシアの作曲家」と述べたというロスラヴェツのピアノ作品全集。生涯を通じて斬新な響きを追求した孤高の作曲家による前衛的な作品です。

GP601



サン=サーンス (1835-1921)
ピアノ作品全集 第1集

練習曲集 Op.52/Op.111/Op.135
ジェフリー・バールソン (P)

フランス・ロマン派の発展に大きく寄与したサン=サーンス。このシリーズでは、現在ほとんど耳にすることのない彼のピアノ曲を取り上げています。第1集は練習曲集。ショパン作品とも違うエレガントな雰囲気を持っています。

GP653



ラフ (1822-82)
ピアノ作品集 第4集

チチェネッタ Op.165/練習曲形式
による12のロマンス Op.8/2つの小品
Op.166/アレグロ・アジャート
Op.151 チャ・グエン (P)

第4集には、18世紀のナポリ民謡を主題とする変奏曲「チチェネッタ」、アルバムの中心となる「12のロマンス」、優雅な「2つの小品」と技巧的な「アレグロ・アジャート」が収録されています。

GP655

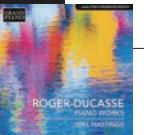


ラフ (1822-82)
ピアノ作品集 第6集

ヴェネツィアの思い出 Op.187/舟歌
Op.143/6つの詩曲 Op.15/幻想曲
Op.142/2つの小品 Op.169
チャ・グエン (P)

家族とともに休日を過ごしたヴェネツィアの思い出が綴られた「ヴェネツィアの思い出」、リストに捧げられた「2つの詩曲」、他全5作品を収録。ラフの多彩な作風を味わえます。

GP724



ロジェ=デュカス (1873-1954)
ピアノ作品集

舟歌 第1番/リズム/前奏曲 イ短調/
暁の歌/6つの前奏曲 他
ジョエル・ヘイスティングス (P)

フォーレの弟子として知られるロジェ=デュカスの作品集。ドビュッシーの親友でもあった彼の作品からは豊かな想像力と鮮明な色彩が見て取れます。「ソノリテ」は、まさしく音の響きそのものが徹底的に追求された音楽です。

GP679

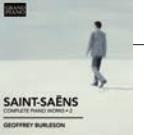


リオット (1928-2011)
隕石と変容

テレーズ・マレングロー (P)

メシアンやクセナキスとグループを組んだり、コンピューター音楽を作ったり、多彩な活動をしたフランスの作曲家リオット。この「隕石と変容」は一種の変奏曲形式をとった先人へのオマージュです。煌めく星のような響きです。

GP605



サン=サーンス (1835-1921)
ピアノ作品全集 第2集

ピアノ協奏曲 第3番 変ホ長調 OP.29-
第1楽章(ピアノ独奏版)/アレグロ・
アッショナート 嬰ハ短調 Op.70(ピ
アノ版) 他 ジェフリー・バールソン (P)

第2集ではサン=サーンス自身が編曲した「ピアノ協奏曲第3番」第1楽章のピアノ独奏版を中心に。冒頭の幅広い分散和音の美しさに耳を奪われます。もちろん演奏は困難です。

GP609



サン=サーンス (1835-1921)
ピアノ作品全集 第3集

6つのバガテル Op.3/アルバム Op.72/
オーベルニュ狂詩曲 Op.73 他
ジェフリー・パールソン (P)

第3集は様々な小品を集めています。表情豊かな小品で構成されたOp.72の「アルバム」、ちょっとしたものという意味を持つ「バガテル」Op.3の気まぐれな楽しさ。どれも絶品です。

GP669



サマズイユ (1877-1967)
ピアノ作品全集

夜想曲/組曲 ト短調/私的人形へ贈る
歌/3つの小インヴェンション 他
オリヴィエ・ショーズ (P)

ショーソン、デュカスの弟子であり、また生涯に渡ってラヴェルと親交を持ったというサマズイユ。その作風は印象派を少し先取りしたもので、響きの美しさが特徴です。

GP621



フローラン・シュミット (1870-1958)
ピアノ・デュエット&デュオのための
オリジナル作品全集 第1集

3つの狂詩曲 Op.53/7つの小品
Op.15/パリ狂詩曲
インヴェンシア・ピアノ・デュオ (P)

パリ音楽院に学び、シャブリエやドビュッシーの印象主義音楽の影響から出発したフローラン・シュミット。重厚で難解なバレエ音楽や合唱作品で知られますが、ピアノ曲はとても親しみやすく、特に初期の曲は本当に聞きやすいものです。

GP623



フローラン・シュミット (1870-1958)
ピアノ・デュエット&デュオのための
オリジナル作品全集 第3集

第163歩兵連隊の行進 Op.48-2/旅のページ
第1巻・第2巻 Op.26/旅芸人の音楽
Op.22 インヴェンシア・ピアノ・デュオ (P)

第3集は「旅」をモチーフにした曲集を収録。音による精密なスケッチが楽しめます。「第163歩兵連隊の行進」は本来軍楽隊のために書かれた曲ですが、現在、連弾版のスコアのみが残存しています。

GP730



フローラン・シュミット (1870-1958)
ピアノ・デュエット&デュオのためのオリ
ジナル作品全集[4枚組ボックス]

GP621, GP622, GP623, GP624
を収録。インヴェンシア・ピアノ・デュオ (P)

同時代の作曲家フランツ・シュミットと混同されがちなフランスの作曲家フローラン・シュミット。その作風は柔軟で流麗、時に神秘的。ピアノの響きを余すことなく生かしたデュエット・デュオ作品集。

GP625



サン=サーンス (1835-1921)
ピアノ作品全集 第4集

ガヴオット ハ短調 Op.23/マズルカ
第1番-第3番/ワルツ集 他
ジェフリー・パールソン (P)

第4集では、古典的な佇まいを持つ舞曲（ワルツ、マズルカなど）を中心に。リュリやラモーを研究したというサン=サーンスの一面が見えてくるような端正な曲が集められています。

GP761



サティ (1866-1925)
ピアノ作品全集 第1集

アレグロ/四重奏曲 第1番&第2番
(スケッチ:1886年) /4つのオジー
ヴ/3つのジムノペディ 他
ニコラス・ホルヴァート (P)

フランスで100年以上もの歴史を持つ出版社サラベルから2016年に出版された“新版”を用いてのサティ全集。世界初録音も含まれるというファンにとっても重要な録音です。

GP622



フローラン・シュミット (1870-1958)
ピアノ・デュエット&デュオのための
オリジナル作品全集 第2集

5つの音で Op.34/ドイツの想い出
Op.28/8つのやさしい小品 Op.41
インヴェンシア・ピアノ・デュオ (P)

第1集では初期の作品、第2集では中期の作品を収録。「5つの音で」はシュミットが生涯を通じて魅せられていた「五音階」を用いた作品。シンプルな旋律線の中にユーモアがあふれています。

GP624



フローラン・シュミット (1870-1958)
ピアノ・デュエット&デュオのための
オリジナル作品全集 第4集

ユモレスク Op.43/歌とスケルツォ Op.54/3
つの楽しい小品 Op.37/小さな眠りの精の1週間
Op.58 インヴェンシア・ピアノ・デュオ (P)

フローラン・シュミットの「2台ピアノと連弾のためのシリーズ」の完結編。彼の代表作の一つ「小さな眠りの精の1週間」を中心に、洒落た曲集を聴くことができます。

GP604



シュルホフ (1894-1942)
ピアノ作品集 第1集

パルティータ/スーシ (ピアノ独奏版)
/左手のための組曲 第3番/変奏曲と
フガード Op.10
カロリーネ・ヴァイヒェルト (P)

チエコ生まれのシュルホフのピアノ作品集。ナチス・ドイツによって「退廃音楽」の烙印を押され、一時期はすっかり忘れられてしましましたが、ダイナミズムの洗礼を受けた多彩な作品は最近になって復興の兆しを見せています。

GP631



シュルホフ (1894-1942)
ピアノ作品集 第2集

5つのピトレスク Op.31/ピアノ・ソ
ナタ 第2番/2つの練習曲/ピアノの
ための音楽 Op.35/ジャズのスケッチ
カロリーネ・ヴァイヒェルト (P)

シュルホフのピアノ曲の中でも、最も特異な曲としてしられる「5つのピトレスク」第3番「In futurum」。方向性こそ違うものの、ケージの「4分33秒」を先取りしています。もちろんCDはこの部分“無音”です。

GP639



シルヴェストロフ (1937~)
ピアノ作品集

素朴な音楽/使者 (ピアノ版) /2つの
ワルツ Op.153/4つの小品 Op.2/2
つのバガテル Op.173/キッシュ・ム
ジーク エリザベス・ブルーミナ (P)

郷愁、回帰、大切な心の中の想い・・・これらを音にしたのがウクライナの作曲家シルヴェストロフ。「素朴な音楽」の繊細なメロディ、モーツアルトへの追憶でもある「使者」・・・限りなく広がる静かな音。

GP760



ステペニアン (1887-1966)
26の前奏曲集

8つの前奏曲 Op.47/8つの前奏曲
Op.48/8つの練習曲 Op.63/前奏
曲 1長調/前奏曲 へ短調
ミカエル・ハイラベティアン (P)

アルメニアの作曲家ステペニアンの前奏曲集。こちらは8曲ずつ3つのグループになっており、必ずしも全部の調性が使われているわけではありません。随所に漂う民謡風のメロディが郷愁を誘います。

GP716



ボリス・チャイコフスキー (1925-96)
ピアノ曲とヴァイオリン・ソナタ

2台のピアノのためのソナタ/5つの前
奏曲/ヴァイオリン・ソナタ 他
ドミートリー・コロステリヨフ/オルガ・
ソロヴィエワ (P) 他

20世紀ロシアを代表する作曲家の一人、ボリス・チャイコフスキー。円熟期の「2台ピアノのためのソナタ」はリズム重視の力強い曲ですが、10代の作品は幾分抒情的。作風の違いが楽しめます。

GP632



チエレブニン (1899-1977)
ピアノ作品集 第2集

ロマンティックなソナチネ Op.4/小組
曲 Op.6/トッカータ 第1番 Op.1/
伝言 Op.39 他
ジョルジオ・コウクル (P)

このアルバムに収録されているのはチエレブニンの比較的初期作品であり、プロコフィエフやラフマニノフ風の機知に溢れた楽しい曲が並びます。とりわけ劇的なOp.39の「伝言」はチエレブニンの傑作とされています。

GP723



シュルホフ (1894-1942)
ピアノ作品集 第3集

ジャズ風舞踏組曲/9つの小さな輪舞
Op.13/オステイナート/5つのジャズ
練習曲/セズ・コンフリー:鍵盤の上の
子猫 カロリーネ・ヴァイヒェルト (P)

シュルホフ作品のもう一つの特徴は「ジャズを積極的に取り入れていること」。第3集でもジャズ風の曲が盛りだくさんです。その中で異彩を放つ「オステイナート」。いつまでも耳に残ります。

GP697



ソラール (1927-)
ピアノ・ソロと2台ピアノのための
作品集

アナトリアへの旅/ジャズ前奏曲/11の練習曲
集/2台のピアノのためのバラード 他 エリック
ク・フェラン=エンカワ/マルティアル・ソラール (P)

フランス・ジャズ界の大御所マーシャル・ソラール。華麗な指さばきとアレンジが愛されているピアニストです。このアルバムでは彼の曲を、同じくフランスのピアニスト、フェラン=エンカワが演奏。トラック21ではソラールとの共演も。

GP685



シマノフスカ (1789-1831)
独奏ピアノのための舞曲全集

18の舞曲/24のマズルカ/6つのメ
ヌエット 他
アレクサンダー・クストリツア (P)
柴垣なつみ (P)

19世紀初頭のヨーロッパで高い名声を獲得していた女性ピアニスト、マリア・シマノフスカ。ここに収録された作品はどれも短く簡潔ですが、闊達なリズムに支えられた見事な舞曲です。

GP608



チエレブニン (1899-1977)
ピアノ作品集 第1集

10のバガテル Op.5/ソナタ
第1番 Op.22/9つのインヴェンシ
オ Op.13
ジョルジオ・コウクル (P)

名作曲家ニコライを父に持つアレクサンダー・チエレブニン。この第1集には青年の荒ぶる書法が目立つ「ソナタ第1番」、対比するかのような「練られた音楽」が際立つ「ソナタ第2番」など5つの曲集が収録されています。

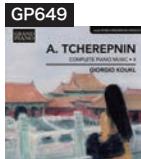
GP635



チエレブニン (1899-1977)
ピアノ作品集 第3集

8つの小品 Op.88/自由な綴り
Op.10/4つのノスタルジックな前奏
曲 Op.23/4つの前奏曲 Op.24 他
ジョルジオ・コウクル (P)

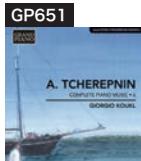
第3集には若き頃の作品から、酸いも甘いも嗜み分けた円熟期の作品までがバランス良く収録されています。1955年に作曲された「8つの作品」Op.88の目まぐるしく変化する表現は聴きものです。

**チェレブニン (1899-1977)**

ピアノ作品集 第4集

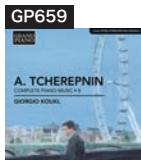
対話 Op.46/12の前奏曲 Op.85/4
つの口マンス Op.31/5つの演奏会練習曲「中国」 Op.52
ジョルジオ・コウクル (P)

第4集には、1分程度の小品で構成された4つの曲集が収録されています。なかでも面白いのが演奏会用練習曲「中国」。実際にこの国を訪れたチェレブニンの印象が強く刻み込まれています。

**チェレブニン (1899-1977)**
ピアノ作品集 第6集

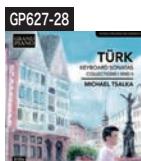
無言歌 Op.82/歌とリフレイン
Op.66/2つのノヴェレッテ Op.19/
ロシア風ロンド 他
ジョルジオ・コウクル (P)

このアルバムに収録された作品は、彼の最も創作意欲が旺盛な時期に書かれており、なかでもストラヴィンスキーを思わせる1946年作曲の「ショーウィンドウの中の世界」はストーリー性豊かな作品です。

**チェレブニン (1899-1977)**
ピアノ作品集 第8集

若い人と年老いた人のために Op.65/
幼きイエスの小さな物語
Op.36b/五度音階による練習曲集
Op.51 他 ジョルジオ・コウクル (P)

チェレブニン・シリーズの完結編は、全て「子どもたち(もしくはピアノを弾きたい大人たち)」のための作品です。83曲からなる小品が様々な言葉で語りかけてくるようです。

**トゥルク (1750-1813)**
ピアノ・ソナタ集 [2枚組]

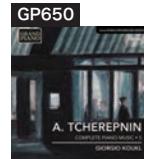
コレクション 第1集 ソナタ 第1番-第
6番 (1776) /コレクション 第2集
ソナタ 第1番-第6番 (1777)
ミヒヤエル・ツアルカ (P)

モーツアルトと同時代に活躍したドイツの音楽家、理論家、教育者のトゥルク。1789年に出版した「クラヴィア教本」は現代の演奏家たちにも強い影響を与えています。

**ヴァンハル (1739-1831)**
鍵盤のためのカプリース集

3つの新しいカプリース・ソナタ
Op.31/3つのカプリース Op.36
ミヒヤエル・ツアルカ (P)

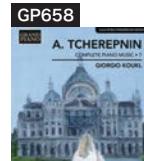
ボヘミアに生まれ、古典から初期ロマン派への橋渡しを担った重要な作曲家の一人、ヴァンハル。カプリースと題された一連の作品は、ロマン派の自由さこそないものの、即興的な楽しさを備えています。

**チェレブニン (1899-1977)**

ピアノ作品集 第5集

8つの前奏曲 Op.9/アラベスク
Op.11/12の小品/取るに足らない
小品集 Op.109
ジョルジオ・コウクル (P)

ここに収録されているもの、本当に小さい曲を集めた多彩な曲集です。なかでも「取るに足らない」と名付けられたOp.109の曲集は、プロコフィエフの「東の間の幻影」を想起させるチェレブニンの心象風景です。

**チェレブニン (1899-1977)**
ピアノ作品集 第7集

祈願 Op.39b/ポルカ (ピアノ版) /
演奏会用練習曲「カンツォーナ Op.28
トッカータ 第2番 他
ジョルジオ・コウクル (P)

1926年に書かれた「祈願」は謎めいた作品です。短いながらも鮮烈な印象を残す第1曲は、不思議なコード進行とシンコペーションが独特なメロディに彩られています。

**トゥルク (1750-1813)**
やさしいピアノ・ソナタ集 [2枚組]

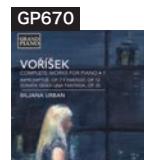
コレクション 第1集 ソナタ 第1番-第
6番 (1783) /コレクション 第2集
ソナタ 第1番-第6番 (1783)
ミヒヤエル・ツアルカ (P)

トゥルクは教本の中で「常に上品で丁寧な演奏を心掛けるように」と説いていましたが、彼の作品もその教え通り、典雅で美しいものばかり。このアルバムでは当時の楽器であるスピネットを用いて演奏しています。

**トゥルク (1750-1813)**
愛好家のための6つのピアノ・ソナタ集

ソナタ 第1番 イ短調/第2番 変ホ長調
/第3番 口短調/第4番 ト長調/第5
番 変ホ長調/第6番 ハ長調 (1789)
ミヒヤエル・ツアルカ (P)

「愛好家のためのソナタ」というタイトル通り、他の曲集より少し難易度の高いこの曲集。ハイドンやモーツアルトに影響を与えたとされています。フォルテピアノの繊細な響きも聴きものです。

**ヴォジーシェク (1791-1825)**
ピアノのための作品全集 第1集

6つの即興曲 Op.7/幻想曲 ハ長調
Op.12/ピアノ・ソナタ 変口短調「幻
想曲風」 Op.20
ビリヤナ・ウルバン (P)

ボヘミア出身の作曲家、ヴォジーシェク。ブラハでトマーシェクの元で修業した後、フンメルに師事し、ベートーヴェンと親交を結び、ショーベルトに影響を与えたという人です。

**ヴォジーシェク (1791-1825)**

ピアノのための作品全集 第2集

主題と変奏 変口長調 Op.19/2つの
ロンド/即興曲 ハ長調 他
ビリヤナ・ウルバン (P)

ヴォジーシェクは数多くのピアノ曲を残しましたが、これらの作品は当時としてはかなり先進的で、一連の即興曲はショーベルトを凌駕するほどの出来映えを誇ります。

**ヴァインベルク (1791-1825)**
ピアノ作品全集 第1集

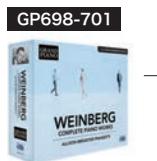
ピアノ・ソナタ 第1番 Op.5/第2番
Op.8/子守歌 /2つのマズルカ 他
アリソン・ブリュースター・フランツェッ
ティ (P)

フルシヤワのユダヤ人家庭に生まれ、ソビエトに亡命。ショスタコーヴィチと親交を持ち、強い影響を受けたワインベルクのピアノ曲。第1集では3曲のソナタを中心に収録。

**ヴァインベルク (1791-1825)**
ピアノ作品全集 第3集

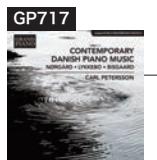
子供の雑記帳 第1集 Op.16/第2集
Op.19/第3集 Op.23/21のやさし
い小品 Op.34/カン・カン アリソン・
ブリュースター・フランツェッティ (P)

難解で陰鬱な作品が多いワインベルクですが、ここには3集からなる「子供の雑記帳」、多彩な表情を持つ「やさしい小品」など、比較的柔軟な曲が集められています。

**ヴァインベルク (1791-1825)**
ピアノ作品全集 [4枚組ボックス]

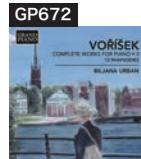
GP603、GP607、GP610、GP611
を収録。
アリソン・ブリュースター・フランツェッ
ティ (P)

一時期は忘れられてしまったヴァインベルク。ショスタコーヴィチの親友でもあった彼の作品は、最近になってようやく復興の兆しが見え、アルバムのリリースも増えました。このBOXには彼の全ピアノ曲が収録されています。

**ノアゴー / ルケボー / ビスゴー**
デンマークの現代ピアノ作品集

ピアノ・ソナタ/タブロー /スタディ
ア 他
カール・ペティション (P)

現代デンマークを代表する3人の作曲家のピアノ曲集。独自の作曲技法「無限セリー」を開発したノアゴー、無調を好んだルケボー、ノアゴーに魅了されたビスゴー。三者三様の作風を楽しめます。

**ヴォジーシェク (1791-1825)**

ピアノのための作品全集 第3集

12の狂詩曲 Op.1
ビリヤナ・ウルバン (P)

第3集の「狂詩曲集」はベートーヴェンに絶賛されたとされ、やはりユニークな曲調を持っています。ショパンを先取りするかのような曲もあり、1818年に出版された曲としてはかなり前衛的です。

**ヴァインベルク (1791-1825)**
ピアノ作品全集 第2集

パルティータ Op.54/ソナチネ
Op.49/ピアノ・ソナタ 第4番 口短
調 Op.56 アリソン・ブリュースター・
フランツェッティ (P)

第2集には、簡潔な書法の中に込められた歌心が味わえる「パルティータ」(とりわけ第7曲のアリアは息を飲むほどの美しさ)。抒情的な表情を持つ「ソナチネ」、親しみ易い曲想の「ソナタ」を収録。

**ヴァインベルク (1791-1825)**
ピアノ作品全集 第4集

ピアノ・ソナタ 第3番 Op.21/第5番
Op.58/第6番 Op.73/リュドミラ・ベ
ルリンスカヤのための2つのフーガ アリ
ソン・ブリュースター・フランツェッティ (P)

第4集には、ショスタコーヴィチの影響から脱し、独自の作風を確立したワインベルクの黄金期である1944年から1946年頃に書かれたピアノ・ソナタ 第3番を含む3つのソナタと、短い2つのフーガを収録。

**ウストヴォリスカヤ / シルヴェスト
ロフ / カンチエリ**
ロシア近代のピアノと管弦楽のための作品集

エリザヴェータ・ブルーミナ (P) /トーマス・
ザンデルリンク(指揮)/ショットワットガルト室
内管弦楽団 他

ロシア周辺の3人の現代作曲家の協奏曲集。ショスタコーヴィチに強い影響を受けたウストヴォリスカヤ、グルジア民謡を効果的に用いたカンチエリ、最近人気が高いシルヴェストロフ。三者三様の世界が広がります。

**フレイハーン / フーリー / ゲラリア
ン / バズ / スッカール**
レバノンのピアノ作品集

ピアノ・ソナタ 第9番/ピアノ・ソナタ
第3番「Pour un instant perdu...」/サ
イクル 他 タチアナ・ブリマク=フーリー (P)

なかなか耳にすることのない近代レバノンのピアノ曲集。フランスとのつながりが強いこともあり、西洋音楽からの影響もかなり感じられます。「西洋と東洋の出会いの地」の濃い音楽をお楽しみください。